

特集 普通って何だろう

発達障がいを知り
共に働く

竹中晃子さんは八代市の熊本
労災病院で医療事務に携わる35
歳。今日も持ち前の集中力を生
かし、仕事に没頭する。
廊下では患者とすれ違う度に
立ち止まり、丁寧な会釈。
「おはようございます。」

と、爽やかな声が響き渡る。

彼女はここで働きながら、医
師の事務作業をサポートする医
師事務作業補助者の資格を取得
した。今は、患者の診療情報が
記録されたカルテの管理や診療
情報の分析を行う診療情報管理
士の資格取得も目指している。

——小学2年生の頃、先生が
クラス全員に向けて、それぞ
れの良いところを書いてくれた。

記憶力が良かった竹中さん
は「漢字博士」の称号が与えら
れた。

気が合う友人もいたが、一人
で過ごす時間も好きだった。

——中学生になり、大のジャ
ニーズ好きに。好きなグループ
の話ともなるとおしゃべりが止
まらなかった。幼なじみや恩師
に恵まれ、友だちと衝突した時
には助けてくれた。

——高校は地元の学校へ。夢
は教師。教育学部進学に向けて
ひたすら勉学に励んだ。

ある日友だちに、流行してい
たミニスカートやルーズソック
スの着用を誘われる。

「そんなことをしたら怒られ
るよ。」

そう答えると白い目で見られ
てしまった。

ちゃんと守りたいだけなのに…。

冗談めいて言われた言葉に何
度か本気で怒ってしまった。

親から「律儀すぎるんじゃない
の」と言われることもあった。

少し煙たいな…。

——念願の教育学部に進学す
ると先輩に恵まれて楽しい学生
生活を送る。子どもと触れ合う
サークル活動に所属し、毎日が

違和感 気づき 安堵

あんど



26歳で広範性発達障害と診
断を受けてからは、病院の紹
介を受けて職業訓練などを開
始。発達障がいであることを
開示し、就職活動を行った。
現在勤務している熊本労災病
院では、個人情報の取り扱い
に気を配りながら事務作業を
こなしている。

輝いていた。しかし、学年が上
がるごとに仲の良かった先輩た
ちは卒業していき、科目の内容
は教育実習などが加わり多様化
していく。グループワークが苦
手で講義や人間関係について
けなくなり、図書館で本を読む
ことが多くなっていった。

ある日、講義の中で自閉症や
アスペルガー症候群などを学ぶ
機会があった。

あれ？

それまで気に留めたこともな
かった「自閉症」という言葉が妙
に引掛かった。

——就職活動では、面接で落
ちてしまったが、幼なじみが勤
めるクリーニング工場で働きの
ながら就職活動を続けた。
しかし、職場では話題につい

ていけず、場をしらけさせてし
まった。就職活動でも、不合格
が続く。積み重なるこれらのこ
とに違和感を覚え、意を決して
病院へ足を運んだ。わずか5分
間の問診を受けると、
「アスペルガー症候群の傾向
があります。」

医師からそう告げられた。

就職活動を始めて2年が過ぎ
た頃、ついに面接をクリア。半
年間、特別支援教育支援員とし
て小学校で勤務する。その後、
鹿児島県の福祉施設で晴れて正
規雇用になる。だが、喜んだのも束
の間。ミスを重ね、わずか2カ
月で退職に追い込まれる。彼女
には利用者たちの微妙な表情を
読み取るのが難しかった。

実家に戻り、再度病院を訪れ、
これまでのいきさつを説明する
と、「君ならできるはず」という
言葉を掛けられた。

病院を移ると、詳しい検査が
行われ、医師からは、
「広範性発達障害ですね。」
と、告げられた。

その言葉に、ほっとした。